

令和5年度 第3回防府市中小企業振興会議 会議録

日時 令和6年2月22日（木）午後2時から

場所 防府市役所 1号館3階 南北会議室

出席委員 12名

欠席委員 2名

事務局 8名

1 開会挨拶

【市長】

本日は、御多忙の中、防府市中小企業振興会議へ御出席いただき感謝する。

令和6年度予算は、新庁舎建設や広域防災広場整備等の防災ネットワークの構築など、防府の未来に向けたまちづくりを進めるとともに、子ども家庭センターの設置、高校生までの医療費の無償化など、防府の未来に向けて子どもたちを全力で応援する「未来が開く予算」として編成した。

また、2023年の住民基本台帳人口移動報告で、防府市の転入超過数が昨年続き、中四国9県の中で最多となった。市内企業、関係者、金融機関も含めて皆様方の頑張りにより社会増になっていると思っており、防府市のまちづくりを進めていき、この流れが続くよう頑張っていきたい。

本日は、令和6年度の中小企業振興施策を説明するので、御意見を頂戴したい。

【事務局】

○ 会議成立の報告

14名の委員中、12名の出席で、防府市中小企業振興会議規則第3条第2項の規定に基づき、本会が成立していることを報告。

○ 会議の公開

防府市中小企業振興会議規則第3条第4項の規定により、本日の中小企業振興会議は公開とする旨を報告。

【会長】

2023年に、元一橋大学名誉教授の伊丹 敬之氏が、人的資本主義が注目されているが、その本当の理由は株主傾斜が上場企業で行き過ぎたことへの警戒感ではないかといった論文を書かれている。財務省の法人企業統計によると、2000年

以降、日本の大企業の労働分配率は下がり続ける一方、企業が株主に配る株主分配率は上昇し続けており、日本の大企業が人に投資をしなくなってしまった。

市内中小企業は、大企業と協力し、本市の産業集積を築いてきた。市内中小企業は、リスクリングや生産性の向上、中小企業間のネットワークをしっかりと維持して密に連絡をとり、大企業とうまくコラボレーションしていくことが非常に重要。

人手不足の状況などを踏まえて、中小企業施策として何が必要か、忌憚のないご意見を願います。

2 令和6年度中小企業振興施策について

【事務局】

～令和6年度中小企業振興施策について概要説明～

《意見等》

【A委員】

市内で創業された方の業種の内訳や創業場所について教えて欲しい。

【事務局】

業種は、飲食業、自動車整備業、サロン、製造業など多岐に渡っている。創業場所もまちなかをはじめ、様々。店舗を持たない方もいる。

【A委員】

山口市では、古民家を改修してカフェを開業されたり、ペット関係の創業をされる方が増えている。商店街も空き店舗を利用した創業もあるが、古民家などを活用した創業が増えてきていると感じる。

【会長】

多くのサービス業では、ほぼ市内でお金が回る形になる。経済の発展を考える上では、外から入ってくるお金を増やす、中で流通するお金を増やす、外に出ていくお金を減らすという3つのことを考えていかなければならない。

外に打って出るとすれば、コネク22のサポートを受けて広報戦略などを立て、発信していける力をつけておくと、外からお金が入ってくる仕組みができてくる。

外に打って出ない場合、例えばカフェや飲食店を開業するときは、市内で調達した素材を使うのであれば外に出ていかないが、外から調達した素材を使っていると、どんどんお金が出ていくので、どこから調達された素材を使うかということが非常に重要になる。

【事務局】

コネク22では、写真や動画の撮り方、発信のテクニックを紹介するInstagram活用セミナー等を実施している。毎回満席になるほど人気があり、外に打っ

て出るための支援を行っていききたい。

【B委員】

商工会議所に相談に来られる創業者や飲食業の方には、顧客管理やどこに打って出るかを考える上では、データ分析をきちんと行うよう、Y-BASEを紹介している。また、会長が言われるように、外から入ってくるものをできるだけ少なくし、地元のものを使うのが一番であるというアドバイスも行っている。顧客をみると、外から価値を求めに来られる方が多い。

【会長】

中で回す、つまり、地元の固定客を作るという意味では、全体のお客さんの何パーセントが固定客か、その中に市外からの方がどれくらいいるのかをしっかりと管理して経営していく体制が重要。また、そのような指標を、何を促進していくかということコントロールできるようになるといい。

【C委員】

ニューヨークタイムズ紙が「2024年に行くべき52ヶ所」を発表し、山口市が非常に取り上げられている。防府は歴史が古く、多くの観光資源を持っている。山口市との違いを調べる必要があるのではないかな。

私の会社に外国人がいるが、市内を歩き回れない。外国語の表記などできることから防府市の魅力を発信していくことが必要ではないかな。

【市長】

2023年に選ばれた盛岡市のまちと山口市のまちは大変よく似ている。盛岡市には北上川があって、山口市には樫野川がある。県庁の隣には盛岡城跡公園があって、山口市には亀山公園がある。また、盛岡にはつなぎ温泉があって、山口には湯田温泉がある。

防府市内の外国語表記について、以前観光案内所の方に聞いたときに、ここまで来れる人はどうにか来れる人だと言われたので、緊急的に英語表記の整備をした。また、観光案内所の方についても全員英語で対応できるようにしている。

防府市に瑞風が停まることになり、そういう面では、日本人好みには評価されたのかなと思っている。

新山口駅のエスカレーターを降りるところの壁にいま防府市の4ヶ所の観光地のポスターを貼っているが、山口市が話題になっていることは非常に大きいので、それを活かしてインバウンドも含めて観光面でもしっかり取り組んでいきたい。

【会長】

奪い合うというより総量を増やしていくというのがマーケティングの基本だと思う

う。SNSでの海外発信といった施策を充実させることも重要ではないか。以前、星野リゾートの星野氏から、中国語や韓国語などの表記があるといいが、基本的に英語があれば大丈夫だと思っているとお聞きした。スピードなどを考えたら、まず英語で整備していくということもあると思う。

【副会長】

新山口駅で降りて山口市から防府市となると、もう一步足を延ばさなければならぬとなるが、防府駅で降りていただいて、山口市に行くというルートをしっかり作るというのではないか。

市内中小企業者で省エネ設備の導入や断熱改修、太陽光パネルの設置がどれくらい進んでいるか分かるデータがあれば教えていただきたい。

小中学校の教室の断熱が進んでいないことが話題になっている。断熱がしっかりされた家では、有病率が非常に大きく下がるということで、健康面にも大きく影響することもある。今後そういった取組があれば教えて欲しい。

【事務局】

太陽光パネルの設置率等が分かる資料はいま持ち合わせていないが、設置率等が分かる資料があればまたお示しする。

【市長】

市有施設のLED化については、6年度末には8割を達成し、将来的に使っていく建物については、令和7年度にはほぼ100%となる見込み。太陽光パネルについても、設置が可能な施設への設置率は、令和7年度頃にはかなり高くなっていると思う。

学校については、率が分かる資料は持ち合わせていないが、防府市では基本的には廃校はしないという方針を立てているので、無駄な投資にならないよう計画的に進めていきたい。エアコンについては一斉に設置し、トイレの様式化については3か年で、来年度までに小中学校で100%となるよう進めている。

【副会長】

学校にエアコンが設置されるのは非常によいことだが、断熱が悪い状態でエアコンを設置すると電力が非常に多くかかってしまい、環境にとっては非常に悪いので、断熱もしっかり取り組んでいかなければいけない。

いま、子どもたちが参加してひとつの学習教材としながら学校の教室を断熱化する学校断熱ワークショップが全国的に広がりを見せている。防府市でもぜひ進めていただきたい。

【C委員】

省エネルギー設備、太陽光発電設備の導入など様々な支援制度があり、助かっている。

太陽光発電設備を導入したが、夏場の電力会社の出力制御により十分に活用できていない。出力制御による影響を回避するため蓄電池を導入しようとするると納期がかり、制度が利用できず、諦める事業者も多いと聞いている。複数年度で実施できる制度など考えていただけるともっと取り組んでいけると思う。

【市長】

昨年の9月補正で計上した「市内事業者等生産性向上設備導入緊急支援事業補助金」は、受付期間を5月までとしている。予算は単年度式だが、債務負担行為など予算の組み方を工夫し、施策の目的が達成できるようにしていきたい。

【会長】

「もしトラ」と言われているが、大統領選挙の結果によっては為替がどうなるかといったことも出てくる。太陽光で発電した電気を活用し、蓄電もできると防府市の産業の力を安定させる、力をつけるということで非常に意味があるので、是非ともご検討いただきたい。

【副会長】

出力制御は、契約に基づく必要な措置とされており、すぐ変わるような状況ではないので、対策としては、電力をたくさん作る時間帯に工場をしっかりと稼働させ、あまり作らない時間帯には、しっかりと休むことをしていかなければいけないというのが現状。

【会長】

第2回目の会議で、高齢者の介護をされている方が介護から解放されたときの労働力の活用について意見があった。新年度予算には反映されていないようだが、検討されていることなどがあればご報告いただきたい。

【事務局】

働き方改革推進事業において、働き方改革セミナーを開催するとともに、事業者の就業規則等社内制度の整備など、多様な働き方の推進に向けたコンサルタントの導入等の取組を支援する。

【D委員】

運送業・運輸業では、売り手市場という形で、業界の中で人がぐるぐる回っている状況。先般参加した講演会で、労働人口が減少している中で、若者を運送業・運輸業に入れていくには、ワークライフバランスだけではなく、賃金面も注力していく必要があると話があった。防府市では、運送事業者に新たに雇用される人材に対し

て補助を出されており、非常にいい施策である。ただ、防府エリアは、近くに周南市もあるため、山口県全体の集中投資ではなく、山陰地方などにもアンテナを張り、人材を集めてくるということをしなければ人材が確保できない状況。特に若者については、そのような方法でなければ確保が難しい。

【会長】

人材を確保するため、市内で説明会を開催するだけでなく、人口は多いが産業の受け皿が少ないところを探して就職説明会を行うというのは方法としてあるのかもしれない。ゼロサム競争になるので、様々な議論はあると思うが、そういったことをやっていかなければ成り立たない産業も存在すると思う。

【副会長】

「モーダルシフト利用促進事業」で鉄道コンテナ等への切り替えを推進されていると思うが、現在、どれくらいの事業者が補助制度を利用しているのか。

【事務局】

「モーダルシフト利用促進事業補助金」は、導入時点での補助となっており、制度設立当初は10件以上の申請があった。今年は1件という状況だが、2024年問題等もあり、これから需要が増えてくるのではないかと考えており、PRを積極的に行っていきたい。

【B委員】

建設業では、文系の方を採用して企業の方で資格を取得させるというような形をとっている会社は何社かあると聞いている。また、自動車整備業でも採用後に整備会社で研修を受けさせるところがあると聞いている。一方で、資格取得後に辞められるという話もある。

【会長】

教育に投資してすぐに辞められるとコストになってしまうので、そこをどのようにしていくかというのは大きな問題だと思う。

【B委員】

雇用環境をしっかりと整えるということで、商工会議所でも、労使関係の個別相談を実施しているが、社内規則等の見直しや福利厚生の拡充といった相談もかなり増えてきており、人材定着の努力もしっかりされている状況。

【C委員】

人手不足は相当に深刻な問題で、人手が確保できないので納期を伸ばそうかという状況にまでなっている。若い人の採用は難しい。離職率も高い。売り手市場で他

社に流れていく。外国人労働者を採用するが、通勤圏内で良いアパートがない、ごみの出し方が分からない、近所トラブルを起こしやすいなどあり、空き家があっても使えるところは少ないといった様々な問題が起こっている。若者をどんどん入れたいと思うが、どの企業も非常に厳しい状況だと思う。

【会長】

山口市の企業で、総務を中心に地元対策等をされ、安定的に中国から来ていただいているというところもあるので、成功されている企業のノウハウや効率的な手法を共有していくということも必要だと思う。

【事務局】

技能実習生については、毎年警察署で説明会があり、警察からは防犯などの説明があると思うが、ごみの出し方などは、商工振興課の職員が説明している。説明が必要なものがあればご相談いただきたい。

【会長】

派遣社員や非正規雇用を増やしていくと、特に製造業の場合は、現場で改善ができなくなり、少し景気が悪くなった瞬間に立て直す力がなくなってしまう、良いものをつくっていく力が少しずつそがれていってしまうといったこともあるという話を聞くので、同時に会社の機能をきちんと維持するような、企業経営の指導などを増やしていくということも必要だと思う。

【副会長】

県内の大学が連携して大学リーグを組織しているが、その中で、地域貢献や人材育成などのいくつかの部会がある。企業が求める人材と学生が企業へ求めるものがうまく合わないことで外に流出してしまうのもったいないので、防府市の企業でいくつか手を挙げていただいて学生とコミュニケーションをとる機会をつくりたいといった希望などがあればご相談いただきたい。

【市長】

以前、大学リーグで企業と学生のマッチングを実施された際に、多くの学生が参加された。コロナも収束したので、市としても様々な働きかけをしていきたい。

【市長】

～閉会 挨拶～

本日は、貴重な意見をいただき、感謝する。

人手不足は大きな問題であり、「地域公共交通網形成計画」を2年延長することとした。一番大きな理由は、運転手不足で、予算をつけても運転手がないということ。まずは人手不足を解消し、そして地域をどうしていくかを考えていかなければ

ならない時代になったということだが、そうした中で、冒頭会長から伊丹 敬之氏の論文について話があったが、生産性を向上していかなければ賃金もあがっていかないと思っているので、行政としてできることは限られるが、市内中小企業の振興のために商工会議所、関係者のみなさまと一緒に頑張ってまいりたい。

会議終了 午後 3 時 3 0 分